



二俣川小だより

11月号

～笑顔いっぱい 友達いっぱい～

横浜市立二俣川小学校 令和4年10月26日



校長 泉 太郎

朝夕は少し冷え込むようになりましたが、何をするにも心地のよい季節となりました。地球温暖化の影響が、ここ数年秋が短く感じられます。新型コロナウイルス感染症拡大も少しずつ収まりつつあり、本校においても徐々に元の教育活動に戻りつつあります。9月から10月にかけては、各学年で水族館見学、スーパーマーケット見学、愛川宿泊体験学習、自動車工場見学など校外に出る活動を実施しました。今後も全校遠足、三浦宿泊体験学習、図書館見学、東京見学、区音楽会、個別支援学級学習発表会などを計画しています。保護者の皆様も楽しみにしていただいている二小音楽会も、実施に向け子どもたちは練習に熱心に取り組んでいます。今冬は新型コロナウイルス感染症拡大第8波に加え、インフルエンザや風邪等にも気を付けていく必要がありますが、まだまだ安心はできませんが、それぞれの活動が充実したものになるように取り組んでいきたいと思っております。

本物に触れるよさ

校外での学習だけでなく、外部の企業や機関と連携した学習にも取り組み始めました。

1 横浜FCの選手による「夢で逢えたら」学習・・・6年生

「カズ」の愛称で有名なプロサッカー選手、三浦知良選手が子どもたちに夢をもつ大切さを伝えるために始め、横浜FCの選手が引き続き取り組んでいます。9月27日、J1リーグ昇格に向けた大事なリーグ戦の中、高橋秀人選手、西山大雅選手、市川暉記選手が来校し、6年生に自身が夢を叶えプロになった経緯や夢をもちそれに向かってチャレンジしていく大切さ、夢を叶えるために周囲の人と関わっていく大切さなどを話してくれました。子どもたちはその一言一言にうなずき、時に笑いながら、真剣に話を聞いていました。遠く特別な存在であったプロサッカー選手が、小学校時代は自分たちと同じように生活し、今でもゲームやYouTubeを楽しんでいるという話を聞き、少し身近な存在になったのではないかと思います。子どもたちも、自分の夢について選手や友達に語り、選手がまたそれに応援のメッセージを伝えるなど、温かさが感じられる時間となりました。



2 LEOCの管理栄養士による「食育」及び「調理実習」学習・・・5年生

10月12日・14日には横浜FCの選手の食事を管理するLEOCの管理栄養士の石川真由美さん、西川綾さんが、体に必要な食事の選び方や摂取の仕方について分かりやすく話し、実際に選手に提供しているメニューから一品選び、子どもたちと共に調理実習を行う学習を行いました。主食や主菜、副菜などをバランスよく摂る大切さは、プロサッカー選手だけでなく自分たちも同じであることが分かり、給食の献立もまた同じように考えられていることが分かったのではないかと思います。調理実習では「ほうれん草とさけフレークのごま和え」を作りました。横浜FCで活躍した内田智也さんも一緒に参加し、子どもたち一人ひとりが真剣に調理に取り組みました。子どもたちは「おいしい」「家でも作ってみたい」などと感想を発表していました。



3 横浜キャノンイーグルスによる「ラグビー体験学習」・・・4年生・6年生

10月20日、ラグビーのプロチーム横浜キャノンイーグルスのスタッフによるラグビー交流学習がありました。横浜市民局スポーツ振興課の事業で、子どもたちがラグビーに触れる機会の創出などを目的したものです。昨シーズンまで選手として活躍し、現在は育成・普及を担当する高橋忍さん、大東文化大学ラグビー部コーチの野口裕也さんが来校し、6年生にラグビーの実技指導、その後、4年生と6年生に講演をしました。ほとんどの子どもたちがラグビーボールに触れることさえ初めてでしたが、分かりやすく楽しい指導とタックルのない簡単なルールでラグビーを楽しむことができました。講演会では高橋さんが、「好きは最強です」と話し、自分の好きなことにチャレンジしていく大切さを子どもたちに伝えていました。高橋さんは小さい頃からいろいろなスポーツに親しんできたが、最後まで続けたのはラグビーで、それが自身の成長につながり、心を豊かにしてくれたとも話していました。



経験してきた人だからこそ伝えられる何かがあるのだと思います。この3つの学習どれでも、子どもたちが真剣に、興味関心を持ちながら、そして、楽しみながら取り組んでいました。今回はいずれもスポーツにつながる学習でしたが、これからも機会があれば、様々な企業や機関とつながりながら、子どもたちが未来に向け夢をもち、様々な選択肢がもてるような学習、キャリア教育を展開していきたいと思っております。